

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	令和4年度第1回高松市生涯学習センター等運営協議会
開 催 日 時	令和4年8月30日（火）午前10時～午前11時30分
開 催 場 所	高松市生涯学習センター2階 大研修室
議 題	(1) 令和3年度高松市生涯学習センター等の事業実績について (2) 令和4年度高松市生涯学習センター等の事業計画について (3) 高松市生涯学習センター開館20周年記念事業について
公 開 の 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	7人
	田中委員（会長）、藤井（雄）委員（副会長）、辻委員、後藤委員、井上委員、藤井（真）委員、大塚委員
傍 聴 者	0人（定員5人）
担当課及び連絡先	生涯学習課 生涯学習センター 087-811-6222

### 会議の経過及び結果

#### 《次第》

- 1 開会
- 2 教育局长あいさつ
- 3 委員等紹介
- 4 会長及び副会長の互選について
- 5 会長あいさつ
- 6 議事
  - (1) 令和3年度高松市生涯学習センター等の事業実績について
  - (2) 令和4年度高松市生涯学習センター等の事業計画について
  - (3) 高松市生涯学習センター開館20周年記念事業について

※ 事務局より配付資料に基づき説明後、議事単位で協議・意見交換
- 7 報告事項
 

令和3年度まなびCANアンケートの結果について
- 8 閉会

#### 《協議の経過及び結果》

事務局から、議事（1）及び（2）について、説明を行った。

（委員）

私の地元の婦人団体では、気象、防災、交通安全等についての研修を行う際に、コミュニティセンターを利用している。コミュニティセンター講座を充実させていくとのことであったの

で、活用していきたい。

(事務局)

生涯学習センターでは、各コミュニティセンター1名任命している生涯学習推進員の養成研修を、月1回程度行っており、例年行っている防災等の研修に加え、今年度は新たな分野として、LGBTについての研修や、インスタグラム・SNSの使い方の研修も行った。

今後も、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえつつ、生涯学習推進員の方との連携を密にしながら、効果的な講座の実施等の試みを続けていきたい。また、コミュニティセンターで好評な講座があれば、講師を紹介していただき、生涯学習センターでも、市全域から集まる皆さんに向けての、アウトプットの機会としての講座を実施したいと考えている。

(委員)

以前より、講座や研修を実施する際に、コミュニティセンター職員の方に色々なアドバイスをいただいております、すぐに対応していただけるので非常に助かっている。

(委員)

インスタグラムを始められたとのことであるが、これまでの広報との違いを伺いたい。また、インスタグラム以外にも、新たな媒体での広報を行っているのか教えていただきたい。

(事務局)

まず、インスタグラムを始めたことによる、これまでの広報との違いについて申し上げる。インスタグラムでの広報を開始した5月から8月までの成果として、高校生や大学生が、目に見えて増えた。現時点では、自主学習のためだけに来館していると思われるが、生涯学習センターで開講している講座に興味を持っていただく機会となり、新たに始まった金融講座のような、若い層に合わせた講座展開もできるようになると考えられ、インスタグラムからの波及効果が期待できるだろう。

次に、インスタグラム以外の広報について、普段「広報高松」を見ていない層にも届く、ツイッター、T i k T o k等のSNSも有意であると考えている。しかし、インスタグラムを含め、アカウントを取得しなければ閲覧できない点が課題となっている。ホームページにもインスタグラムと同じコンテンツを掲載する方法が考えられるが、情報を、正確に、すべて載せる広報媒体であるホームページは、画像・動画といった容量の大きなデータによって構成されるSNSのコンテンツとはなじみにくいと考えられるため、今後、今まで見ていない方に見ただけのような方法について、更なる検討を進めていきたい。

(委員)

今までは「広報高松」だけで周知していたのか。

(事務局)

「広報高松」と高松市のホームページ、そして「まなびかんづめ」という“ペーパーかわら版”のようなチラシを配っている。しかし、行政が出しているものというのは、若い方には、かっこ悪いような印象を持たれやすい部分もある。「まなびかんづめ」を中心に広報を行ってきたところであるが、SNSをはじめとする、多様な媒体での広報について、より技術的な方法、多くの人に見ていただける方法を検討していきたい。

(委員)

コロナ禍にありながら、講座受講者数が維持され、また、増加しているのは、生涯学習へのニーズの高さを示しているのだろう。自主学習スペースを利用し、学生、学齢期にあるときに、

こういった生涯学習のシステムの一部を、身をもって体験することが、その後学齢期を外れたときの生活を豊かにするものであると感じる。

学校現場では、子どもたちに、思考力・対話力・考える力・伝える力・思いやる力といった哲学の力をつけてもらいたい、と、先生方も子どもたちも、四苦八苦して取り組んでいるところである。「こどものための哲学対話」講座について、“哲学”ということばにとっつきにくい印象があるため、「朝ごはんパンですか？ご飯ですか？」のような、親しみのあるタイトルにしてはいかがだろうか。保護者の方も、学校の様々な行事に参加される中で、考える力の重要性を感じていると思われるため、保護者にピンとくると、講座への参加につながるのではないだろうか。

(事務局)

まず、自主学習スペースについて、昨年度までは、昼間は交流サロン（オープンスペース）のみで実施していたところであるが、以前より交流サロンを利用していた方はそのまま交流サロンを利用し、7月以降、小研修室等を、昼間も自主学習スペースとして開放し始めてから来館するようになった方は、そちらを利用する傾向にある。このため、全体として、テーブルに1人か2人程度の、ゆとりのある条件での利用が可能となっており、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点でも、密を回避できていると考えられる。また、交流サロンには、クールシェアのために来られている方もおり、高松市が取り組んでいる脱炭素社会への一助にもなっている。その一方で、小研修室等の部屋は、長机の上、蛍光灯の下という条件が整っているため、学習に適した環境となっている。学校の夏休みと同期間中に実施している、昼間の自主学習スペースの開放については、現在試行的に行っている段階であるため、うまくいったものを継続していきたい。

次に、学齢期の方に、生涯学習の姿を見せることが、今後の人生、またその人の生涯学習に有効だというご意見について、その通りであると思う。現在、自主学習のために来た方や、映画を見に来た方など、今まで来ていなかった方が来館するようになり、高齢者の方が講座を受講しに来ている姿を見ていただく良いきっかけになったと感じている。

「こどものための哲学対話」講座については、今回の委員の皆様からの高いご期待を踏まえ、対応してまいりたい。ネーミングは、今回は第1回目ということもあり、このタイトルとなったところであるが、次回以降、委員の皆様からいただいたご意見や、講座参加者の声をもとに、講師と調整したい。学校現場への周知という点では、インスタグラムを見て来てくれた高校生や、大学と連携して行っているラジオ番組に参加してくれた小学生・中学生・高校生が、友達にも広めてくれているようである。

(委員)

自主学習をする際、生涯学習センターが空いていて利用しやすいのだ、と子どもから聞いたことがある。多くの人に来てもらうことももちろん大事であるが、ちょうどいい穴場にもなっていると思う。

また、小学生が、学校の学習の一環で、片原町商店街を歩き、話を聞いている様子を見かける。子どもたちが生涯学習センターに立ち寄り、社会科見学のように学べる機会を設けると楽しいと思う。

(事務局)

生涯学習センターといたしましても、現在の新型コロナウイルス感染症の感染状況において

は、ご利用いただいている方に、換気や手指消毒等の適切な感染対策をお願いしながら、このいわゆる穴場感を維持していくイメージで運営していきたいと考えている。

また、小学生の校外学習で生涯学習センターを利用していただくというご提案についても、状況を見ながら、検討させていただきたい。

(委員)

大学連携事業について、ラジオにとどまらず、大学内の色々なプロジェクトと連携事業を行えば、実際に大学生が来館する機会となり、生涯学習センターについて知ってもらうきっかけにもなると思う。

また、Instagramについて、多目的ホールの可動席を撮影した動画等、まなびCANならではの投稿がなされており、他と差別化できている点が良いと思う。改善点として、パッと見たときに、文字がわかりやすいように工夫することであるとか、チラシの画像データをそのまま使用するのではなく、Instagram用に作り直すことが挙げられる。

(事務局)

まず、大学連携事業について、香川大学では、ラジオ以外にも、防災教育やワークショップ等のプロジェクトも行われているとのことであるが、今回、第1回目として、ラジオでの連携事業を始めているところである。若者世代の利用促進という観点においても、非常に効果的であると考えられるこの事業について、実際に行っていく中で、いろいろな課題等を整理しながら、今後の取り組みに生かしていきたい。

Instagramについては、文字の見えやすさや写真の使い方についていただいたご意見を、十分に活用させていただきたい。

---

事務局から、議事(3)について、説明を行った。

(会長)

20周年記念事業に関する情報は、いつごろ公開予定か。

(事務局)

10月中に広報を行いたいと考えている。

---

事務局から、報告事項について、説明を行った。

(副会長)

小研修室での自主学習スペースの利用が増えている点について、その背景等を細かく突き詰めていくべきである。プラスの効果をもたらしているもの、またそうでないものを分析すると、面白い案が生み出せると思う。

(事務局)

自主学習スペースの利用状況については、小研修室を、夜間に加えて昼間も開放した際に、メディアに取り上げられ、このタイミングで利用者が増加したとみられる。また、学校の試験期間にも、学生の来館が多く見られる。反対に、香川県下の新型コロナウイルス感染症の感染者が増加すると、利用者は減少している。新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いた際には、さらに利用者を増やす策を考えたい。